

2015年版

(幸水・豊水・その他赤梨)

梨 病 害 虫 防 除 暦

時 期		対象病害虫名	防除方法(薬剤・希釈倍数)	収穫前日数 総使用回数	散布液量	備 考
休眠期	1~2月	シンクイムシ類・ハダニ類 カイガラムシ類・黒星病	荒皮はぎ、病芽・病枝剪除			
剪定後	3月上旬	ハダニ類 コナカイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍	発芽前/ー		●選定作業なのでハーベストオイルを3月に散布できない場合には、落葉後10月下旬~11月上旬に単用で200倍を散布する。 ●石灰硫黄合剤等のアルカリ性剤やオキシラン水和剤、デランフロアブル、オーソサイド水和剤80などの水和剤や銅剤との混用は避ける。
収穫後~ 3月まで	3月いっぱい	白紋羽病	フロンサイドSC 500倍	30日前/ 土壌かん注1回	1樹あたり 50~100ℓ	●樹幹を中心に半径1mを深さ40cmまで掘り、成木1本あたり50~100ℓかん注する。 未発病樹に対して予防的に使用する場合は土壌かん注機を用いてもよい。 ●かん注量が樹あたり100ℓ以上となる場合には、1,000倍(100~200ℓ/樹)で土壌かん注する。
		胴枯病	トップジンMペースト(原液) 塗布 剪定・整枝時および病患部削り取り直後/3回			●健病境界部を浅く削り塗布する。 ●胴枯病、枝枯病の重症部にはベンレート水和剤をハーベストオイルで20倍(3~6月/2回)に希釈し塗布する。
りん片 脱落期	3月下旬	黒星病・カイガラムシ類 ハダニ類等	病 害 虫 被 害 芽 除 去 (黒 星 病 防 除 の 徹 底)			
	3月下旬 ~ 4月上旬	黒星病・赤星病	トレノックスフロアブル 500倍 または デランフロアブル 1,000倍	30日前/5回 60日前/4回	250ℓ	●デランフロアブルはかぶれが問題となる場合があるので注意する。 ●疫病対策は泥跳ねを抑え、降雨前にアリエッティ水和剤1,000倍(14日前/3回)を散布する。 発病部はすぐに切り取り焼却する。 ●ハマキムシ類対策はダイアジノン水和剤34 1,000倍(14日前/6回)を散布する。
りん片脱落終了後 ~開花直前	4月上旬 ~ 4月中旬	黒星病・赤星病 アブラムシ類	マネージDF(EB剤) 6,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 ウララDF 2,000倍	21日前/3回 30日前/5回 14日前/2回	300ℓ	●トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症(胴枯病菌による)の防除のため使用する。 ●モンシロドクガ等の食葉性害虫対策は、ダイアジノン水和剤34 1,000倍(14日前/6回)を散布する。
開花期	4月中旬	黒星病	芽基部発病芽の摘除(交配時に努めて実施)		250ℓ	●交配期間が7日以上にわたり黒星病の発生が心配される場合に限り、トレノックスフロアブル500倍(30日前/5回)を散布する。 ●受粉当日の散布は控える。
受粉終了後	4月下旬	黒星病・赤星病 アブラムシ類	スコア顆粒水和剤(EBI剤) 4,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 バリアード顆粒水和剤 2,000倍	14日前/3回 30日前/5回 前日/3回	250ℓ	●トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避及び心腐れ症(胴枯病菌による)の防除のため使用する。 ●バリアード顆粒水和剤はミツバチへの影響少ない。
摘果期	5月上旬	黒星病・赤星病・心腐れ症 (胴枯病菌による) 心腐れ症(胴枯病菌による) アブラムシ類・シンクイムシ類	トレノックスフロアブル 500倍 ベンレート水和剤 3,000倍 サイアノックス水和剤 1,000倍	30日前/5回 前日/散布4回 (無袋)45日前/3回 (有袋)7日前/3回	250ℓ	●トレノックスフロアブルは赤星病その他病害対策。
		ナシヒメシンクイ・モモシンクイガ チャノコカクモンハマキ・チャハマキ リンゴモンハマキ リンゴコカクモンハマキ	コンフューザーN 200本/10a	成虫発生初期 から終期		●コンフューザーNは10aあたり200本をなるべく平均になるように、小張線を利用して吊り下げる。 ●個人ではなく集団で設置するとともに、指導機関と事前によく相談する。 ●2回に分けて設置する場合には、この時期に100本/10aを設置し、7月中旬に2回目分の100本/10aを設置する。
	疫病					●疫病の発生が心配される場合はアリエッティ水和剤1,000倍(14日前/3回)を散布する。
	5月中旬	黒星病 アブラムシ類・シンクイムシ類 カメムシ類・ニセナシサビダニ	ベルコートフロアブル 1,500倍	14日前/5回	250ℓ	●落果を防ぐため、SSの風圧をやや落として散布する。 ●黒星病の発生が懸念される場合、ユニックスZ水和剤500倍(45日前/3回)による追加防除を行う。 ●アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類等の発生が見られる場合にはマブリック水和剤20 2,000倍(30日前/2回)を散布する。 ●ニセナシサビダニが多い園ではハチハチフロアブル2,000倍(14日前/2回)またはコテツフロアブル2,000倍(収穫前日/3回)を散布する。
5月下旬	黒星病・輪紋病・炭そ病 アブラムシ類・シンクイムシ類 カイガラムシ類	有機銅フロアブル 1,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍	3日前/9回 日/3回		●有機銅フロアブルには、「キノドーフロアブル」や「ドキリンフロアブル」がある。 ●炭そ病多発生が予測される場合は代替として、デランフロアブル1,000倍(60日前/4回)を散布する。 デランフロアブルは収穫60日前までに散布する薬剤なので収穫前日数に注意する。	

		果実の肥大促進	ジベレリンペースト適期 (満開の30~40日後に果梗部塗布する。)	20~30mg/1果		●モスピラン顆粒水溶剤は新高、長十郎等の展開葉に薬害を生じる場合がある。その場合には、ダントツ水溶剤2,000倍(前日/3回)またはアクタラ顆粒水溶剤(前日/3回)に変更する。	
梅雨入り	6月上旬	黒星病・輪紋病 ----- シンクイムシ類・カメムシ類 クワコナカイガラムシ等	ベルコートフロアブル スプラサイド水和剤	1,500倍 1,500倍	14日前/5回 (無袋)45日前/2回 (有袋)7日前/3回	250ℓ	●梅雨時は雨量に応じて殺菌剤を適宜追加する。 ●スプラサイド水和剤による薬害が心配な場合には、オリオン水和剤40 1,000倍(3日前/2回)散布する。 ●スプラサイド水和剤は収穫前日数に注意して散布する。 ●ニセナシサビダニ多発園ではハチハチフロアブル2,000倍(14日前/2回)またはコテツフロアブル2,000倍(収穫前日/3回)を散布する。
	6月中旬	黒星病・輪紋病 ----- カイガラムシ類・ハダニ類	フロンサイドSC	2,000倍	30日前/ 散布1回	300ℓ	●カイガラムシが多い園ではアプロード水和剤1,000倍(30日前/2回)を散布する。 ●雨よけ栽培等でハダニ・ニセナシサビダニの発生が多い場合には、ダニゲッターフロアブル2,000倍(前日/1回)を散布する。
	6月下旬	輪紋病・炭そ病 ----- シンクイムシ類・クワコナカイガラムシ等	ストロビートライフフロアブル(QoI剤) オーソサイド水和剤80 ダーズバンDF	2,000倍 1,000倍 3,000倍	前日/3回 3日前/9回 21日前/3回	250ℓ	●オーソサイド水和剤80は耐性菌回避の意味がある。 ●この頃からシンクイムシ類の密度が高まってくる。 ●新高の袋掛けは薬剤散布後に実施する。
新梢発育 停止期	7月上旬	黒星病・輪紋病 (黒星病果実感染防止の重要期) ----- シンクイムシ等	インダーフロアブル(EBI剤) ベルコートフロアブル テルスターフロアブル	10,000倍 1,500倍 3,000倍	7日前/3回 14日前/5回 前日 /2回	250ℓ	●ベルコートフロアブルは耐性菌回避と輪紋病の補強の意味がある。 ●黒星病防除にはインダーフロアブルの代わりにアンビルフロアブル1,000倍(7日前/3回)(EBI剤)でもよい。 ●インダーフロアブルで輪紋病を対象とする場合は5,000倍とする。 ●夏雑草の防除はバロックフロアブル散布の1週間前ごろにバスタ液剤(前日/3回)を散布する。
	7月中旬 7月下旬	ハダニ類 ----- 黒星病・輪紋病・炭そ病 シンクイムシ類・ハマキムシ類	バロックフロアブル ナリアWDG(QoI剤+SDHI剤) サムコルフロアブル10	2,000倍 2,000倍 5,000倍	14日前/2回 前日/3回 前日/3回		●バロックフロアブルはハダニの発生極初期に散布する。(殺卵・殺幼虫) ●梅雨が長引いた場合は先にオーソサイド水和剤80 1,000倍(3日前/9回)を散布する。 ●カメムシ類にはMR. ジョーカー水和剤2,000倍(14日前/2回)を散布する。 ●カメムシ類が多い場合にはアグロスリン水和剤1,000倍(前日/3回)に切り替える。
収穫期	8月上旬 ~ 9月中旬	シンクイムシ類 カメムシ類・ハダニ類等 ----- 輪紋病 ----- 炭そ病	ロディー水和剤 (臨機) ●コンフューザーN設置園でもシンクイムシ類などが発生する場合にはロディー水和剤等を臨機防除で散布する。	1,000倍	前日/2回	250ℓ	●カメムシ類発生時にはスタークル顆粒水和剤2,000倍(前日/3回)を臨機防除で散布する。 ●ハダニが多い場合にはマイトコーネフロアブル1,000倍(前日/1回)または、ダニサラバフロアブル1,000倍(前日/2回)を散布する。 ●輪紋病の多発が予想される場合には2トップジンM水和剤1,500倍(前日/6回)を散布する。 ●炭そ病の多発が予想される場合はストロビードライフフロアブル2,000倍(前日/3回)(QoI剤)を散布する。
	9月中旬 ~ 10月中旬 10月下旬	ハダニ類 ----- 黒星病 ----- 黒星病 (翌年の芽基部病斑を防ぐ 重要防除時期) 炭そ病	オキシラン水和剤 2回散布 10月下旬~11月上旬 3回散布 10月中旬~11月上旬 ●落葉は黒星病の有力な伝染源であり、炭そ病の伝染源ともなるため、必ず処分する。	500倍	3日前/9回	350ℓ	●ハダニ類の多い園は遅くとも10月中旬までにコロマイト乳剤1,000倍(前日/1回)を散布する。 ●黒星病多発園では、オキシラン水和剤500倍(3日前/9回)による秋期防除をこの時期に開始し、落葉期まで、3回の散布を行う。 ●落葉が遅くなる年は、落葉期(8割程度が落葉したとき)に最終散布を行う。 ●炭そ病多発園では、オキシランの代わりにデランフロアブル1,000倍(60日前/4回)を散布する。(デランフロアブルはかぶれが問題となる場合があるので注意する。) ●オキシラン散布時は展着剤のアビオンE(500~1,000倍)を加用する。 ●ハダニの多い園では下草で越冬するハダニの餌を無くすため、下草の防除を徹底する。ラウンドアップマックスロード(7日前/3回)の秋冬期散布が有効。
落葉期 (8割程度落葉)	11月上旬 ~下旬						

★ 農薬は、適正使用(使用時期・使用量・使用回数など)はもちろんのこと、周りへ畑・園、作物へ農薬が飛散しないよう散布時には注意しましょう。

資料: JAグループ千葉梨病害虫防除暦